

比率は非農家の14.4%に対し、農家世帯は9.5%となっている。

また、熱効率の高い油脂類は、非農家世帯4.1%、農家世帯3.2%である。

D 外 食 の 状 況

昭和40年調査による全国平均の外食率は11.3%である。以下、業態別、階層別、市郡別に外食の状況を見ると第17表(1)、(2)、(3)に示すとおりである。

1. 世帯業態別外食状況

世帯業態別の外食率を比べてみると、常用勤労者世帯の外食率が14.4%で最も高く、次いで事業経営者世帯は10.5%、常用勤労者のいる兼業農家世帯9.6%となっている。

また、外食率の低いのは、その他の兼業農家世帯の6.5%、専業農家世帯の7.0%である。

第17表の(1) 世帯業態別外食率

全国平均	農 家 世 帯			非 農 家 世 帯		
	専業世帯	常用勤労者のいる世帯	その他の兼業世帯	事業経営者世帯	常用勤労者世帯	日雇労働者世帯
11.3	7.0	9.6	6.5	10.5	14.4	9.2

2. 支出階層別外食状況

支出階層別に外食状況を見ると、支出の高い階層ほど外食率も高い傾向を示している。特に第Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ階層にあっては、全国平均を上回っている。

最高は、第Ⅴ階層の16.6%、最低は第Ⅰ階層の8.1%である。

第17表の(2) 支出階層別外食率

I 5,000円未満	II 5,000円～9,999円	III 10,000円～14,999円	IV 15,000円～19,999円	V 20,000円以上
8.1	11.1	13.5	14.2	16.6

3. 市郡別外食状況

市郡別に外食の状況を見ると、七大都市の外食率が15.5%で最も高く、次いで、人口10万以上の市が、13.0%、その他の市9.8%であり、最低は郡部の9.0%となっている。

第17表の(3) 市郡別外食率

七 大 都 市	人口10万以上の市	そ の 他 の 市	郡 部
15.5	13.0	9.8	9.0

E 食 材 料 費

国民栄養調査でいう食材料費とは、摂取した全食品量について、購入、自家生産、もらいもの等の別を問わずすべて市場価格に換算して1人1日当たりの平均として計上したものである。

1. 全国平均